

マダニによる感染症に注意

マダニの多くは春から秋にかけて活動が活発になり、マダニが媒介するウイルス性感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」が増加します。

発症すると重症化することも多く、有効な治療法もワクチンもないため感染予防が特に重要です。

◆マダニとは

マダニは、食品などに発生するコナダニや、衣類や寝具に発生するヒョウダニなど家庭内で生息するダニとは種類が異なります。

マダニ類は固い外皮に覆われた比較的大型(吸血前で3〜4mm)のダニです。

主に森林や草地などの野生動物が出没する環境に多く生息していますが、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息し、日本全国に分布しています。

◆重症熱性血小板減少症候群

(SFTS)とは

SFTSウイルスを保有するマ

ダニ類に咬まれることによって感染し、発症するウイルス性感染症です。

【好発時期】

春から秋(5月〜8月が多い)

【潜伏期間】

マダニに咬まれてから

6日〜2週間

【症状】

主に発熱や消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が出現し、時に頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、呼吸器症状(咳など)、出血症状(紫斑)をおこします。致死率は、6.3〜30%と報告されています。



◆予防のポイント

有効な抗ウイルス薬はなく、予防のためのワクチンもありません。マダニに咬まれないようにすることが重要です。

- マダニの活動が盛んな春から秋にかけて注意する

- 草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る時は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し肌の露出を避ける

- ダニが衣服の中に入らないよう、

- 首にタオルを巻いたり、シャツの袖口は軍手や手袋の中へ、ズボンの裾は長靴の中へ入れる
- 屋外活動後はマダニに刺されていないか確認をする
- 感染者の血液、体液、排泄物との直接接触は避ける



タカサゴキララマダニ



フタトゲチマダニ

◆マダニに咬まれてしまったら

マダニに咬まれても痛みや痒みは少なく、気が付かないことが多いようです。

吸血中のマダニに気が付いたらつぶしたり、無理に引き抜いたりせずに医療機関で処置を受けて下さい(マダニを無理に取り除こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあります)。

マダニに咬まれたら数週間程度は体調の変化に注意し、発熱などの症状が認められた場合はすぐに医療機関で診察を受けてください。

○お問い合わせ

本庁健康福祉課保健衛生係

☎ 43-2836

佐賀支所地域住民課保健センター

☎ 55-7373

